

令和5年1月17日

インドネシア官民合同委員会結果概要

日時：2022年12月19日(月) 尼時間 09:00-12:00

場所：国家職業資格認証機構(BNSP)

参加者数：18名

政府(4)： 尼 国家職業資格認証機構(BNSP)、理事長及び理事(2名)

金属・機械加工分野試験協会(LSP-LMI)(2名)

日 厚生労働省 海外協力室長を含め2名

在インドネシア大使館 (1名)

業界団体(1)：インドネシア金型工業会(IMDIA)(2名)

民間企業(5)：Astra Polytechnic(2名)PT KMK Plastic (1) PT Denso(2) PT Panasonic(1) PT Ebara(1)

有識者(1)：SESPP 事務局技術顧問

事務局(1)：JTB 霞が関事業部(1名) (別途、日尼通訳1人)

場 所：Badan Nasional Sertifikasi Profesi (BNSP)2階会議室

1. 今年度の成果(SESPP 事務局、IMDIA)

技能検定

・機械製図(CAD 作業)2級技能評価トライアル(SET)/技能評価者認定(SAC)

12月12日～16日、松下ゴーベル財団・ハイテク金型センターにて実施。

結果：受講者4名、4名全員が評価者認定に合格見込。受検者1名、合格者無し。

2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

①SESPP 事業の最終目標：

技能評価システム(技能競技大会・技能検定)を構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。

②技能競技大会・技能検定の目標・活動

・技能競技大会・・・目標：技能競技種目のレベルアップ

活動：専門家によるデモンストレーション・セミナー、

技能競技委員の訓練、模擬競技の実施。

・技能検定・・・目標：技能検定の定着及び実施種目のレベルアップ

活動：2022年事業のフォローアップ。

③2023年度の事業実施案

・2022年度までの事業のフォローアップ

プラスチック成形2級 SET/SAC]または『機械製図 CAD 作業2級 SAT/SET

3. 官民合同委員会での主な意見

(1) 次年度の支援職種について

- ・谷川前事務局長からプラスチック成形は2級の認定評価者を増やして欲しいという希望をいただいている。機械製図(CAD作業)は専門家より、2級の受検者レベルがまだ高くなく、今回認定評価者となる予定の4名が中心となって、2級の受検対策、訓練を行い、2級受検者を増やすよう要望を受けている。(SESPP事務局)
 - ・金属加工分野だけでなく、情報技術分野、ロボティクス、メカニカルシステムメンテナンス等の職種にも取り組むべきと考える。(BNSP:Kunjung Masehat 理事長)
- ロボット技術等が必要になってきている。LSP-LMIの担当者を日本に派遣し、日本の活動を視察させたい。
(BNSP:Tetty DS. Ariyanto, M. Par 理事)

(2) インドネシアにおける技能認定試験の現状(IMDIA:Rudinato氏、Ari Septi Farani氏)

- ・インドネシアで出来る研修を8職種選別して実現。そのひとつが機械製図(CAD作業)。
- ・SESPP受講者で優秀な成績を収めた者は、次年度も参加するよう要請を行う。
また、評価者認定合格者は、BNSPの評価者訓練を受けることとなっている。
- ・IMDIAでは会員法人の協力のもと、金型仕上げ、設備メンテナンス、研削盤、フライス盤、機械検査、金属プレス、プラスチック成形、機械製図(CAD作業)等の訓練、実技試験を実施している。
- ・これまでに国家技能評価検定は3824名が受検、合格者は2,255名を輩出している。
2020年度はCovid-19の影響で国家技能検定を実施できなかったが、2021年度より再開している。
- ・機械製図(CAD作業)については、3級合格者は累計18名、2級合格者は累計5名である。
- ・日本政府のODA支援により、ハイテク金型センターに機械類の設備を配備することができた。
より多くの研修を実施する予定である。

(3) 研修の実施方法について

- ・対面研修、オンライン研修の違いやメリット、デメリットについて厚生労働省からの問いに対して、IMDIAから受講者の理解度の差があることや、実技の研修はオンラインでは伝わりにくい部分があり、対面での研修の方が格段に良い旨の回答がIMDIAよりあった。

(4) 相互認証について(BNSP:Kunjung Masehat 理事長)

- ・将来的には日本とインドネシアの間で資格が相互認証されることを期待している。
- ・インドネシア国内だけでなく、タイ、マレーシアやシンガポール等の他国でも有効な認証となるよう、IMDIAに協力を要請する。

(5) 定期的なコミュニケーションについて(BNSP:Kunjung Masehat 理事長、Tetty DS. Ariyanto, M. Par 理事)

- ・今回のような会合、コミュニケーションはとても有意義で重要。
年1回の官民合同委員会の実施だけでは、十分でない。1年に1回以外に定期的に会議や交流の実施を希望する。定期的な交流により、課題を見つけ、解決していきたい。

以上